

たかいし

ファミサポだより



4月に新年度を迎え、新しいスタートをきられた方も大勢おられることと思います。当センターも新しく活動の始まる方が何組かいらっしゃいます。

たかいしファミサポは、随時依頼会員の入会受付をしておりますが、依頼会員の増加とともに、活動依頼も増加の傾向にあります。

少しずつではありますが、活発になってきたのだなと思う反面、その依頼に対して、地域によって条件の合う提供会員さんが少ないため、待っていらっしゃる依頼会員さんもいるという現状です。

ファミサポ活動を充実させていくために、提供・両方会員さんがもっと増えて欲しいと切実に願っている次第です。

センターとしても、昨年よりも更に広報の幅を広げていきたいと思っております。



おねがい

依頼会員としてご登録していただいている方も、時間に余裕ができた、空いている時間があるという方！！ぜひ、両方会員さんになりませんか。

活動状況（平成21年4月～平成22年3月1日）

1. 会員数

2. 活動件数

198件

依頼会員	115	人
提供会員	39	人
両方会員	9	人
合計	163	人

提供・両方会員講習会実績報告

・第1回目 7月6日(月)子どもと遊ぶ手遊び 7月7日(火)子どもの事故防止

提供会員 6名 両方会員 0名 登録

・第2回目 1月29日(金)子どもの事故防止 2月1日(月)子どもと遊ぶ手遊び

提供会員 6名 両方会員 3名 登録

万一事故が発生したら...



- 子どもを預かっているときに提供会員がケガをした場合
センターへ事故の状況について連絡する
(事故日・場所・事故の状況・ケガの状況)
- 預かった子どもがケガをした場合
提供会員は、センターと親へ事故の状況とその対応について連絡する
- 物損事故の場合
被害者の方にはお詫びを申し上げるとともに、被害にあった物が
どのような物であるかを確認する。 写真必要
(原則としては、現状復帰となります)

センターからのお願い

- 登録内容に変更があった場合は、センターへご連絡ください。
・住所・電話番号が変わったとき
・お子様がお生まれになったとき など...
- 活動報告書は、活動月の翌月5日までにご提出ください。
(持参・郵送・FAX どれでも結構です)
会員番号・お名前・印鑑またはサインも忘れずをお願いします。



センターに連絡のない住所変更の場合、転居先不明で郵便物が返送されます。

後日、電話連絡も不通である場合は、退会の手続きをいたしますので、ご了承ください。

【お問い合わせ】たかいしファミリー・サポート・センター

(社会福祉法人 高石市社会福祉協議会)

〒592-0011 高石市加茂4丁目1番1号市庁舎別館1階

TEL : 072 (261) 3698

FAX : 072 (261) 9375

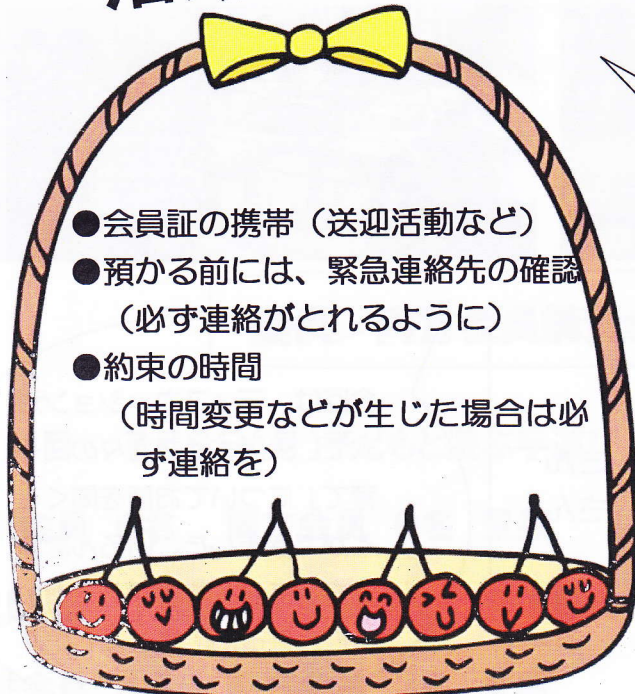
開所時間 9:00~17:30 (月~金)



提供・両方会員さんの 活動報告書より抜粋

- いつも元気いっぱいです。スイッチ等あぶなくない範囲で本人の意志を見守っています。
- 新幹線のおもちゃトーマスが気に入ったようで線路をつなぎ合わせて楽しそうに遊んでいました。アンパンマンのボールでも転がしたり、投げたりして遊びました。今日は、寒いので家の2階から電車もしばらく見て喜んでくれました。時々「ママ?」と思いましたが、電車で気がまぎれました。
- ちょっと恥ずかしそうでした。
家を覚えていて、先に歩いていってくれました。本は、シンデレラ、魔法のどれみ、サンタのおもちゃ工場を楽しく読みました。
- お互いに意思が通じるようになって楽しいです。
- 以前に会ってはいたものの、やはりママがいないので、帰り道は心配そうな感じでした。お家に到着してからも、緊張気味の様子。
何度も話しかけているうちに笑顔も出て安心しました。次会うときが楽しみです。
- お姉ちゃんたちと一緒に過ごす時間がより増えました。

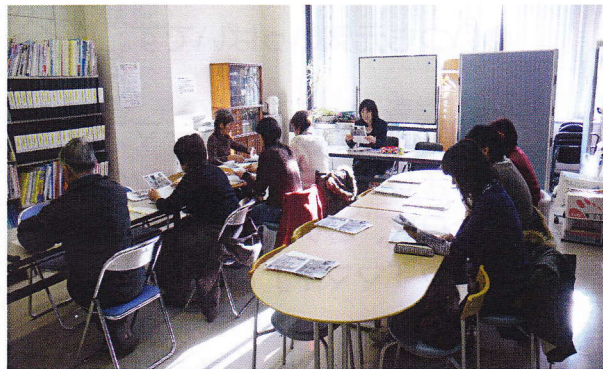
活動のときには...



お互いの信頼関係があって成立する活動です。
長く関係を続けていくためにも、決まりごとを守ってお互いが気持ちよく活動しましょう!!

提供・両方会員のための講習会報告

●1月29日（金）



●子どもの事故防止

講師の先生：

高石市保健センター

保健師 市原 真理 先生

事故予防だけではなく、
どのような原理で事故が起
きるのかも、資料を見なが
ら学びました。

●2月1日（月）



●子どもへの接し方・遊び方

講師の先生：

子育て支援センター

新里 恵子 さん

堂阪 久子 さん

今回は、ディスカッション形
式で、受講された方々の「子
育て」についてお話を聞くこ
とができました。いろんな育
て方があり、方法があるとい
うことを改めて感じました。